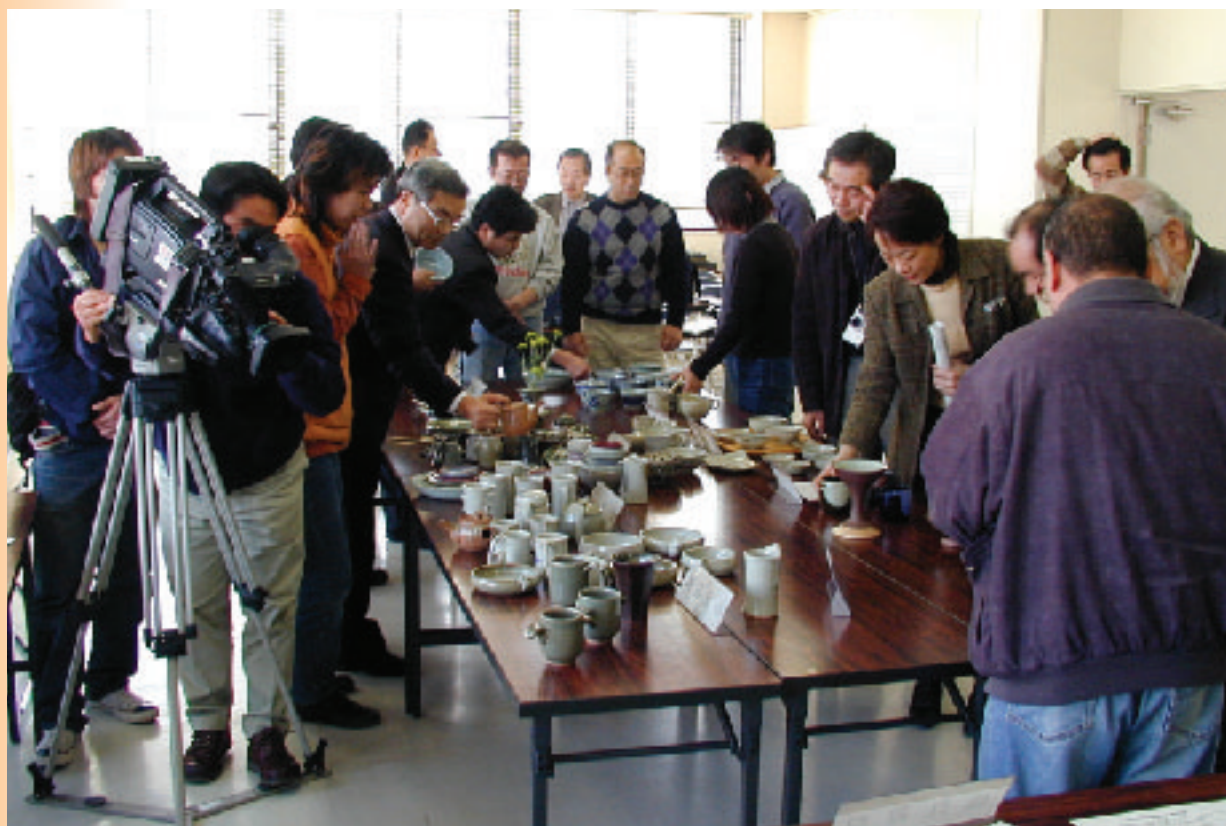


モデル  
事業

# 荒尾・玉名地域陶器 ユニバーサルデザイン化検討会



ユニバーサルデザイン陶器完成発表

## UD導入の背景

### ●伝統工芸発展のための各種取組みを行っています。

県下有数の窯元の集積地である地域の特性を活かし、地域の窯元の協同化による一体的な発展や伝統工芸の推進のために各種取組みを行っています。

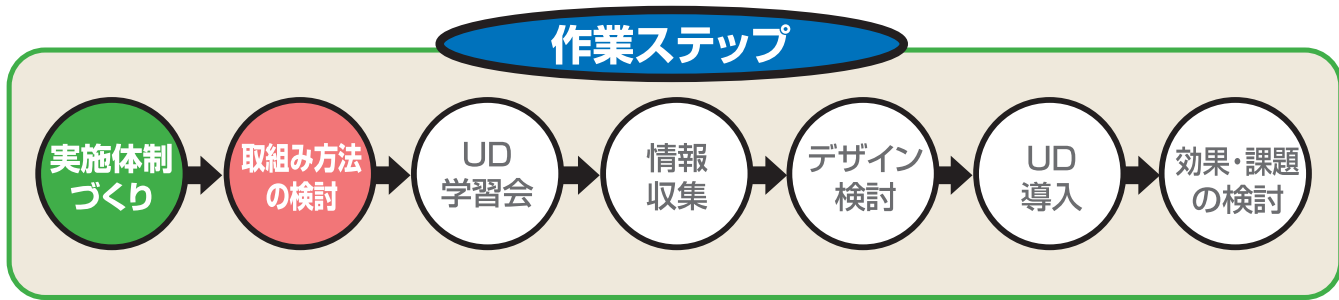
- ①荒尾・玉名地域窯元振興会の設立（平成13年4月）
- ②小代焼が国の伝統的工芸品に指定（平成15年3月）

## 事業の目的

### ●UD導入による荒尾・玉名地域の窯元の活性化

荒尾・玉名地域において窯元の一体的な発展を図り、陶器の産地化をめざすとともに、地場産業として発展するための新たな取組みとして、より使いやすいUD陶器の開発に取り組んだものです。

取組みの内容を4ページの作業ステップにあてはめてご紹介します。



## 検討会議の設立

平成14年6月、荒尾・玉名地域窯元振興会と県玉名地域振興局により、UD陶器づくりの取組みについての協議を行うとともに、専門的な助言等を求めるため崇城大学そうじょうだいがく芸術学部アドバイザー就任を要請しました。

平成14年9月、「UDとは何か?」についての勉強会を開催し、この取組みの趣旨等を説明。会終了後、この取組みに賛同する窯元振興会の会員からなる検討会議を設立しました。



## 検討会議で取り組む内容の検討

### ① 陶器づくりへのUD導入

- UD学習会の開催
- 試作品の製作、アンケート調査、モニタリング調査の実施
- 先進地(兵庫県丹波焼たんばやき)視察の実施
- UD陶器の製作と検討

### ② UD陶器のPR

- 各種展示会への出展
- 展示会でのアンケート調査の実施



## 作業ステップ

実施体制  
づくり取組み方法  
の検討UD  
学習会情報  
収集デザイン  
検討UD  
導入効果・課題  
の検討

## UD学習会の開催



UD学習会



取っ手の事例

窯元の参加者から、「UDとは何なのかよくわからない」との意見が多く出されたため、崇城大学芸術学部の磯貝教授他3名の方をアドバイザーとして招き、具体的なものづくりの事例を中心に学習会を実施しました。

学習会のテーマは、「やきものと生活文化ーUDとのかかわり」及び「デザインの発想法について」でした。

## 講義内容

- 高齢化の進行に伴い、今までと同じ生活をしたいと考えていても、できない(使いにくい)と感じる人が増えてきている。身の回りを見回して、UDの観点からものづくりを考え直す必要がある。
- ものづくりは使う人の立場で行うことが重要である。

## 荒尾・玉名地域における陶器UD化の方向性

- 窯元の参加者がUDの考え方を活かした試作品を製作し、それに対し幅広い利用者からの意見を聞くことで改良を重ね、陶器のUD化を図っていくこととしました。



情報  
収集試作品製作・  
アンケート調査・モニタリング調査

UD化検討会



試作品の説明

- 20代から60代の男女(43人)に日常生活の中で実際に使用してもらい、アンケート調査を実施しました。また、玉名地域の方々にUDモニターとして登録して頂き、モニタリング調査を実施しました。

## 調査結果

- マグカップ(取っ手のあるカップ)の大き目の取っ手は、男性には握りやすいと好評でしたが、高齢者や女性には大きすぎて持ちにくいなど、年齢や性別により評価が分かれ、様々なニーズがあることがわかりました。



UDモニターとの意見交換

## 作業ステップ

実施体制  
づくり取組み方法  
の検討UD  
学習会情報  
収集デザイン  
検討UD  
導入効果・課題  
の検討情報  
収集たんばやし  
兵庫県丹波焼視察

丹波UD食器

兵庫県<sup>ささやまし</sup>篠山市の<sup>たんばやし</sup>丹波焼は、日本六古窯のひとつに数えられ、昭和53年に国の伝統的工芸品に指定されており、平成12年度からユニバーサルデザインの考えを取り入れた陶器づくりを実施しています。地元陶器祭りでの展示等で好評を博したことで、窯元主体による「ユニバーサルデザイン食器開発委員会」を組織し、研究試作や関係施設等の視察研修、各種展示会での展示等、積極的な取組みが行われています。



マグカップ(取っ手のあるカップ)



湯のみ

丹波UD食器の特徴としては、①しっかりした重量感、②手作りの逸品、③陶器の持つ土の温かさであることの3点です。

近畿福祉大学と連携し、消費者の意見を聞くためのアンケート調査を実施するなど、使い手の立場に立ったものづくりが実践されています。



## 試作品の製作及び検討



窯元からの説明



取っ手を別素材で作る



両側に取っ手を付けたマグカップ



「取っ手」を主なテーマとして、試作品の製作を行いました。

すべての人や状況に対応できるように、取っ手を変形可能な別素材（プラスチック等）にするアイデアや、握力の弱い人でもしっかりと持つことができるように、両側に取っ手を付けるなどのアイデアが出されました。

検討の初期段階では、「すべての人」が使いやすいということを具体的に形として示すことは、とても難しいとの意見が多く出ました。



子供用マグカップ



## 作業ステップ

実施体制  
づくり取組み方法  
の検討UD  
学習会情報  
収集デザイン  
検討UD  
導入効果・課題  
の検討UD  
導入

## UD陶器の製作

14年度は、取っ手などの具体的なテーマを中心として、様々なUD陶器の試作、検討を繰り返しました。その結果、取っ手を横に付け、急須のふたのつまみをずらすことで、片手で楽に注げる急須や、陶器を他のものと組み合わせるといった発想から、ストローを固定し、手が不自由な人でも楽に飲むことができるストローカップができあがりました。

さらに、いろいろな利用者のニーズを陶器づくりに活かそうと、玉名郡南関町の「なんかん陶器梅祭り」に出展しアンケート調査を実施しました。



片手で楽に注げる急須



ストローカップ



「なんかん陶器梅祭り」での展示

効果・課題  
の検討

## 事業効果

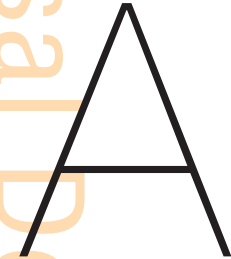
これまでは、自分が使いやすいと感じるものはだれもが使いやすいと思いきみ、ものづくりを行ってきました。しかし、今回取り組んでみて、障害のある方、妊婦、高齢者、子ども等、それぞれの使い手の立場でものづくりを行うことが重要であるとの認識が窯元の参加者の間に浸透しました。

## 課題

今後も、この取組みを契機として、高齢者の方や温泉旅館での観光客の方の使用を通じ、様々な利用者との対話を繰り返し、「できるだけ誰もが使いやすい陶器づくり」をめざしていくこととしています。



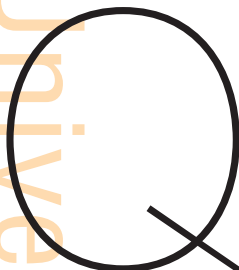
## UD陶器づくりへの 取組みのきっかけは 何だったんですか？



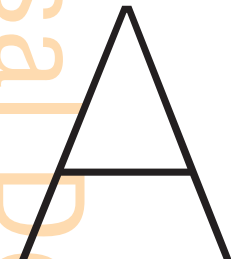
近年、窯元の中から、「陶器の販売低迷等もあり、消費者との意見交換会をしたい」との声があがっていました。そこで、幅広い使い手の方々との対話を行うUDの考え方を活かしてみてもどうかと考えて取組みを始めました。

すべての人にとって、簡単、快適等のUDの視点から、幅広い使い手との「対話による」陶器づくりを行うことが、結果的に新たな顧客層の掘り起こし、さらには販路の拡大等につなげることができたらと思いつ取り組みました。

(回答者:荒尾・玉名地域窯元振興会)



## 陶器にUDの考え方を 取り入れるために 工夫した点は何ですか？



UDの考えを陶器の中に取り入れるといっても、何をどう作っているのかわかりづらく、なかなか具体的な陶器づくりには進めませんでした。

そこで、UDを陶器の中に形として取り入れやすくするために、テーマをより具体的な「取っ手」に設定して進めることにしました。

また、使う人を「独り暮らしのお年寄り」と想定することで「小ぶりで軽い」というような、その人の立場に立った使いやすい陶器の形や重さといったイメージを持って、UD陶器づくりの中に活かして製作しました。

(回答者:荒尾・玉名地域窯元振興会)